

## 自己評価票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
<b>I. 理念に基づく運営</b>				
<b>1. 理念と共有</b>				
1	○地域密着型サービスとしての理念  地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホーム独自の理念を作成し、ホーム内に掲示したり、毎月発行のホーム便りに掲載している。	○	具体的ではなくわかりづらい。毎月のミーティング時に読み合わせを行い、理解を深める。文章が長いので、簡潔な言葉に改める。
2	○理念の共有と日々の取り組み  管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホームの理念を具体化するため、毎朝福祉の理念チェックポイントを唱和し、念頭において業務にあたっている。		
3	○家族や地域への理念の浸透  事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	理念を掲示したり、ホーム便りに掲載したり、運営推進会議で取り上げている。福祉の理念チェックポイントを食堂に大きく掲示し、入居者や来訪者に理解が得られるようにしている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>				
4	○隣近所とのつきあい  管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	道で会えば気軽に挨拶したり、会話をしたりしている。また、来訪者には気持ちよくホーム内ですごしてもらえよう心にかけている。ご近所の方が気軽に入ってこられて、入居者と会話を楽しまれることもある。		
5	○地域とのつきあい  事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	老人会行事（ふくふくサロン）に積極的に参加している。また、地区清掃への参加や配布物当番など、地域の役割を担うよう務めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献  利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	毎月の地域交流会を開催し、ご近所の高齢者に参加してもらっている。参加者からは「楽しみにしている」と好評である。	○	交流会の案内状は個人ごとに手渡しすると、開催日を忘れず、招待された気分になって喜ばれるのでは。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>				
7	○評価の意義の理解と活用  運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	年に1回職員全員で評価を行うことで、グループホームがどうあるべきか把握する機会となっている。問題点については、ミーティングやカンファレンス等で対策を話し合い、改善を図っている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度の会議では、ホームの状況報告や運営に関する意見交換を行っている。参加者からは毎回活発な意見が出ている。職員だけでは気づかないような意見はとても参考になる。		
9	○市町村との連携  事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護保険課や福祉課を定期的に訪問。ホームの便りを渡すなど、状況報告をしている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	場合によっては成年後見制度の利用を検討することがあるが、実際に利用した人はいない。	○	制度を知らない職員のために、成年後見人制度や地域権利擁護事業について勉強会で取り上げる。
11	○虐待の防止の徹底  管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員が共通の認識を持ち虐待防止に努めている。	○	各職員が法律の内容まで理解しているわけではないので、学習の機会を設け、虐待防止に対して理解を深める。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	○	もっと職員が利用者にゆっくり関わられるよう工夫し、利用者から意見・苦情を聞きだす機会を増やす。
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	○	スタッフ交代時の引継ぎミスで家族への報告がもれる時があるため、申し送りノートへの記載を徹底し、必ず報告する体制を作る。
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	○	意見や苦情の内容とそれに対する対応を記録に残しておく。
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	○	事情が許す限り、家族会や運営推進会議、認定調査への参加を職員に促し、共同参画の意識を高める。
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	○	病院受診や買い物の付き添いなどでホーム内のスタッフが減った場合、余裕のある対応ができない。病院受診については混雑する日時を避ける、あらかじめ予約を入れるなどの工夫をして改善をはかる。入居者が休息する時間（13：00～14：30）を活用できるよう工夫する。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18 ○職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動がないため常時なじみの職員がケアにあたっているが、離職者が発生した場合、利用者の問い合わせに対して事情を説明するに止まっている。	○	働きがいや魅力のある職場作りに努め、離職者を最小限に食い止める。若い職員や男性の職員の定着が課題。職員の状況に応じ柔軟に処遇できるようにする。
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19 ○職員を育てる取り組み  運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	講習会や勉強会の情報を公示し、希望者へは参加できるように配慮している。	○	体系的な職員教育制度を整備する。
20 ○同業者との交流を通じた向上  運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣グループホームの運営者との勉強会へ出かけ意見交換してる。	○	運営者だけでなく、職員間でも意見交換の場を設け、サービス向上を目指す。
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み  運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員から意見・要望が出されたときは耳を傾け、話し合い、解決している。休憩時間や休憩場所の確保。	○	問題を抱える職員には個別に意見・要望を聞きだし、ストレス解消に努める。
22 ○向上心を持って働き続けるための取り組み  運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員の勤務状況や業務遂行能力を把握し、処遇に反映させるようにしている。また、意欲のある職員には、講習会参加や資格試験受験のために勤務に都合をつけるなど便宜を図っている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	○初期に築く本人との信頼関係  相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前は体験利用などを取り入れ、利用者との会話や様子観察から困っていることや要望を探るように努めている。本人や家族、担当ケアマネに聞き取り調査を行い、生活歴や趣味、好みなどの情報収集に努めている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係  相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前には必ず家族との面談を行い、困っている点や介護に関して、希望される点を聞いている。また、ホームの介護方針の説明を行い、双方が納得して利用できるように努めている。	
25	○初期対応の見極めと支援  相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族、支援センターなどの情報をもとに、関係医療機関や市町村、担当ケアマネに協力を仰ぎ、必要なサービス提供ができるように努めている。	
26	○馴染みながらのサービス利用  本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	見学だけでは入居をためらう方については、ホームで食事を摂ってもらったり、数時間過ごしてもらい、ホームの雰囲気になじんでもらうようにしている。	
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	家事作業やレクレーションを通して、こちらが支援するばかりではなく、教えられたり、助けられたりする場面がたくさんある。	○  入居者個々の特技を見極め、注目を集める場面を作り、自信につなげていく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ホームでの生活ぶりを密に報告することで家族と情報の共有を行い、協力を求めている。積極的に入居者を支援される家族もいれば、そうでない家族もある。	○	入居者が抱いている思いを家族へ伝え、理解を得る努力。ホームへの来訪を促す取り組み。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援  これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	身元引受人以外の家族にも写真や状況報告書を送付し、利用者の現状に対する理解を得るようにしている。関係が円満でない場合は、利用者の気持ちを積極的に伝え、入居者に対する理解を得るようにしている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の状況報告書を希望される親族へ毎月発送している。また、自宅や馴染みの店へ出かけたという要望があるときは、可能な限り出かけるように努めている。		
31	○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者の相互理解が進むように、職員が間に入り、助言をしている。また、一人で過ごすことが多い利用者には気軽に声をかけ、レクレーションなどへの参加を促している。		
32	○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	契約終了の家族とも良好な関係が保っているが、現在のところ、継続的な支援を希望される方はいない。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>			
<b>1. 一人ひとりの把握</b>			
33	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自己決定の尊重を第一に支援している。	
34	○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時は本人や家族からの聞き取りを行ったり、担当ケアマネから情報提供を受け、利用者の生活歴や病歴、好みの把握に努める。	
35	○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	ひとりひとりの生活状況を観察し、心身状態や能力の把握に努めている。	
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者の心身状態に重点を置き、家族や関係者の意見を取り入れ、介護計画を作成している。「今できること」を大切に作成している。	
37	○現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	実施と評価をこまめに記録し、週に1度のカンファレンスのほか、必要ときは臨時でカンファレンスを行い、状態に応じた計画を立てている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人ごとに経過記録を作成し、職員の誰もが記入したり、閲覧できるようにしている。特変者がある場合は、経過記録のほかホーム日誌や申し送りノートへ記載し、統一したケアを図っている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	できる限り要望に応えられるよう努めている。グループホームであるため、居住サービスに限られる。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	夏祭りや地域交流会などに多くのボランティアの協力を得ている。また、運営推進会議へ地域住民や民生委員が参加したり、避難訓練へ消防署職員が参加したりと各方面から支援をもらっている。		
41	○他のサービスの活用支援  本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	在宅時に関わりがあったケアマネやサービス事業者と相談し、入居者の状態や希望に応じたサービスが受けられるようにしている。		
42	○地域包括支援センターとの協働  本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	特になし		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	○	医療機関従事者へ密な情報提供を行い、認知症高齢者に対する理解を深めてもらう。
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	○	医療機関従事者へ密な情報提供を行い、認知症高齢者に対する理解を深めてもらう。
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	○	職員の経験や知識によって、方針への理解が異なる。今後、勉強会などで看取りに関する知識を高める必要がある。
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	○	家族へのフォロー

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止  本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	心身へのダメージを抑えるよう、移転先へホームでの生活や身体状況について情報提供を行っている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>				
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>				
50	○プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者ひとりひとりを尊重し、丁寧に対応するよう心がけているが、時として小さな子供に対するような言動があったり、雑な対応が見られる。個人情報の取り扱いについては、家族からの同意書を作成し、そこに記載されている内容以外の扱いはしない。	○	接遇マナーを学ぶ機会を設ける。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援  本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	自己決定の尊重を第一に支援している。また、様子を観察することで、感情や思いを表せるよう、言葉かけを行っている。		
52	○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人の希望や身体状況にあった生活のため、柔軟に対応するよう努力している。しかし、全員の希望通りにはなっていない。	○	業務改善を行い、入居者ひとりひとりの言動に対応できるよう、ゆったりした時間作りをする。
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>				
53	○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	外出時は更衣したり、お化粧するよう促している。また、時候にあった衣服になるよう支援している。理美容については自分から希望される方は、店へ送迎している。他の方は時期をみて、出張理容に来てもらっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の能力に応じた役割分担で準備や片付けを行い、食事に対する楽しみや期待感を盛り上げている。調理、食事、片付けは職員が常に一緒に行っている。	○	月に1回程度外食を試み、適度な緊張感と贅沢感を味わっていただく
55	○本人の嗜好の支援  本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	食べ過ぎや体調の変化に注意しながら、適度に楽しめる嗜好品は容認している。ただし、タバコに関しては完全に職員の管理のもとで楽しんでもいただく。(現在喫煙者なし)		
56	○気持ちよい排泄の支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表を作成することで各利用者の排泄パターンを把握し、それに応じた誘導を行っている。布の下着利用を基本として、利用者の能力に応じ、尿パットやオムツ、ポータブルトイレなどを利用している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援  曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の曜日と時間帯は決めているが、体調や希望により柔軟に対応するようにしている。両ユニットの風呂を同時に沸かし、あいている方へ入ってもらうことで、待ち時間をなくし、ゆっくり入浴できるよう配慮している。入浴後も髪を乾かしたり、クリームを顔につけるよう促している。		
58	○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	早く寝るのが好きな方、遅くまで起きている方、それぞれの生活習慣を尊重している。また、その日の心身状態に応じ、休息を促すなど、対応している。		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	毎日の家事作業や散歩、レクリエーション、買い物など利用者の能力に応じた支援を行っている。季節ごとの行事を積極的に取り入れ、楽しい時間を作っている。	○	日曜日毎に行っているビデオによる映画鑑賞を継続し、一週間のリズムを作る。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ほとんどの方が現金を事務所預かりにしているが、管理能力や希望によっては、利用者本人が金銭を所持し、使っている。		
61	○日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気が良い日は散歩や買い物、庭の手入れなど戸外で過ごすように努めている。		
62	○普段行けない場所への外出支援  一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	温泉、山菜採り、水汲み、自宅訪問、地域行事、花見など積極的に外出の機会を設けている。	○	家族も一緒に外出する機会を作りたい。
63	○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望される時は常に支援している。家族への年賀状は本人に必ず書いてもらうよう働きかけている。	○	月に1度取組んでいる絵手紙を利用し年賀状作りをする。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援  家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	にこやかな挨拶、茶菓子の提供で、居心地よく過ごしてもらえるよう対応している。時には職員も会話に加わり、現在の状況を報告したり、介護に関する意見を聞いたりしている。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践  運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の具体的な行為を理解し、拘束をしないで済むよう、危険予知を行いながら、安全確保を図っている。それでも安全の確保が難しい場合は、家族に了承を得た上で拘束（ベット柵使用など）を行うときがある。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室に鍵はない。危険防止のため、裏口は常に施錠。正面玄関は日中施錠しないことを原則としているが、利用者の状態が安定せず、無断外出の危険が高いときには、施錠することもある。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	昼夜、プライバシーや自尊心に配慮しながら、所在の確認や様子伺い、安全確保を行っている。危険を察知した場合は職員間で声を掛け合い、協力して危険回避に努めている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	注意が必要な物品は利用者の目が届かないところに保管している。個人の所持品はマッチ、ライター、刃物以外本人の能力に応じて判断している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	利用者の状態観察を密に行い、事故を未然に防ぐよう努めている。火災訓練実施、素足での歩行、とろみをつけた食べ物や飲み物、赤外線センサー設置、薬の分包に氏名記入など	○	職員ひとりひとりが危険を予知し、事故を防止する能力を高める必要がある。
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	急変が予測される利用者については個別に対応を決めている。年に1回消防署から講師を招いて救急処置講習会を開催。	○	応急手当や救急処置の勉強会の実施
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に避難訓練を行っている。運営推進会議で非常事態の際は協力を得られるようお願いしている。	○	非常事態が近所にすぐわかるような設備を設ける。(サイレン・赤色灯など)

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い  一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	今後予測されるリスクについては月1回のお便りで報告したり、面会や電話で話し合ったりしている。	○	家族とのコミュニケーションを密にし、信頼関係を築くよう努める。
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>				
73	○体調変化の早期発見と対応  一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	様子観察、バイタル測定で異変の発見に努めている。気づいた際は主治医へ連絡し、指示を仰いでいる。深夜帯でも看護師と連絡が取れるようにしている。また、申し送りや連絡ノートを使い、スタッフ全員に情報が伝わるようにしている。		
74	○服薬支援  職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医からの指示どおりに確実に服用するよう支援している。症状に変化が現れたときには主治医に報告している。薬の内容については薬局から出される説明書にて確認。	○	職員全員が薬の内容を把握できるように、勉強会を行ったり、フェイスシートに服薬の内容を整理する。
75	○便秘の予防と対応  職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	水分補給をこころがけ、乳製品や果物をおやつに取り入れている。午前・午後の2回軽い体操を行ったり、散歩に出かけたりしている。排便状態を確認し便秘薬の調整を行っている。		
76	○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、声かけや介助で口腔ケアを行っている。夜間は義歯を預かり、洗浄している。	○	月1回のかかりつけ歯科医の検診
77	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	糖尿食を基本に献立を作成し、カロリーを抑えながら、栄養バランスのとれた食事に行っている。また、利用者の状態により、食事形態を変えたり、トロミをつけたり、補食を取り入れたり、高カロリー流動食を導入したりしている。おやつや食事時以外でも、こまめにお茶などの飲み物を出し、水分補給をしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○感染症予防  感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	マニュアルを作成し、実行している。外出から戻ったときは必ず手洗い、緑茶でのうがいをしている。インフルエンザ予防接種は利用者、職員全員受けている。	○	口腔ケアを確実に行う。
79	○食材の管理  食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理器具やフキンは塩素消毒や日光消毒をしている。生鮮食品は前日に購入したものを翌日には使い切るようにしている。職員、利用者とも食材を扱う前は手洗いを励行。	○	冷蔵庫内の清掃記録を残し、定期的に行うようにする。
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫  利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	草花を植え家庭的な雰囲気づくりに努めている。玄関は透明ガラスで囲まれていて、中の様子が外からもわかるようになっている。玄関に椅子を設置し、利用者が座って外を眺められるようにしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	草花や置物、掲示物で季節感を演出している。日中は外の光や風を取り込み、利用者に外気を感じていただけるよう心がけている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自分の決まった席だけではなく、玄関やホールの所々に椅子を置いて、好きなところでくつろげるようにしている。	○	ソファやテーブルがあるともっとくつろげると思う。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている	自宅からタンス、仏壇、冷蔵庫、テレビなどを自由 に持ち込んでもらって、その人らしい部屋と なっている。	○	居室入り口の名札の位置が高く、腰が曲がった利 用者には見づらいため、低い位置に変える。
84	○換気・空調の配慮  気になるにおいや空気のだよみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	頻繁に窓をあけ外気を取り込んでいる。24時間換 気システムを利用し、状況に応じて換気量を調整 している。空調は状況に応じてこまめに温度調整 を行っている。		
<b>(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの身体機能を活か して、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している	手すり設置や段差解消で自立した生活になるよう 支援している。また、危険と判断される箇所は直 ちに対策をたてるようにしている。(家具の角に 緩衝材をつける等)	○	手すりの増設。危険箇所をなくすため、職員の環 境整備意識を高める。
86	○わかる力を活かした環境づくり  一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工 夫している	本人の気持ちに配慮しながら声をかけ、混乱や失 敗の防止に努めている。張り紙や目印になる飾り など利用している。		
87	○建物の外周りや空間の活用  建物の外周りやベランダを利用者が楽し んだり、活動できるように活かしている	利用者と一緒に畑で野菜作りをしたり、花壇に花 を植えたりしている。芝生の上で運動会や食事会 を催している。設置されているウッドデッキに出 て景色を眺めたりしている。	○	屋外に日陰を作り、椅子やテーブルを設置。天気 のよい日はそこでくつろげるようにしたい。

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

V. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
項 目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input checked="" type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいの <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいの <input type="radio"/> ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input checked="" type="radio"/> ①毎日ある <input type="radio"/> ②数日に1回程度ある <input type="radio"/> ③たまにある <input type="radio"/> ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input checked="" type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input checked="" type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input checked="" type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input checked="" type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input checked="" type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input checked="" type="radio"/> ①ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> ②家族の2/3くらいと <input type="radio"/> ③家族の1/3くらいと <input type="radio"/> ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input checked="" type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	①大いに増えている ② <input checked="" type="radio"/> 少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	①ほぼ全ての職員が ② <input checked="" type="radio"/> 職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての利用者が ② <input checked="" type="radio"/> 利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての家族等が ② <input checked="" type="radio"/> 家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- 個別のケア      利用者全員一律のケアではなく、それぞれの状態に応じて柔軟に対応している。
- 自立支援のケア      余計な手は貸さず、残存能力を引き出すことで、身体能力の維持・向上を図る。
- 地域との共生      地域へ開かれたグループホームを目指し、ホーム行事に地域の高齢者を招いたり、老人クラブ・保育園行事・町内行事へ積極的に参加したり、一斉清掃への参加や配布物の当番など地域の役割を担っている。その活動を通して認知症高齢者に対する理解と協力を得るように努めている。